

ほっと♡笑媛

2013.1 発行

vol.4

<http://ehime-cms.com/>



100歳の笑顔 写真提供:グループホームしおさい

- 目次**
- P2 — **年頭言** 「新年のご挨拶」
 - P2.3 — **トピック** 第9回 四国交流フォーラム in えひめ
 - P4 — **活動報告** 認知症介護実践者研修
 - P5 — **活動報告** 相互研修
 - P6 — **活動報告** ブロック研修／小規模Net 学習会
 - P7 — **エッセイ** ほっと♡エピソード
 - P8・9 — ● 県内グループホーム・小規模多機能事業所の紹介 ● お詫びと訂正
 - P10 — ● 私の1冊 ● ちょっとおでかけ・おすすめスポット紹介 ● 編集後記

一般社団法人 愛媛県地域密着型サービス協会

〒790-0056 愛媛県松山市土居田町23-5 烏谷ビル2F
TEL 089-989-2550 FAX 089-989-2557 E-mail: info@ehime-cms.com

新年のご挨拶

一般社団法人 愛媛県地域密着型サービス協会
副理事長 矢野 幸男

平成25年の新春を迎え、謹んでお祝いを申し上げます。

昨年中は、当協会の運営に対しまして多大なるご支援、ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

当協会も一昨年より一般社団法人愛媛県地域密着型サービス協会として

新たな仲間の皆様のご理解、ご協力を頂き運営をさせて頂いています。

今後も、当協会の目的である会員の質及び資質の向上を図り、

地域密着サービスのあるべき姿、存在意義を広く啓発していくことを大切に活動してまいりたいと思います。

又、会員の皆様のご意見、ご要望に耳を傾け、事業者団体としての役割を果たせるよう取り組んで行きたいと思っています。

本年が、貴事業所にとって輝かしい年になりますと共に

皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。



トピック

第9回 四国交流フォーラム in えひめ

すべての笑顔のために～地域密着型サービスの底力～

『すべての笑顔のために～地域密着型サービスの底力～』をテーマに、愛媛県で四国交流フォーラムを開催しました。

- 日 時:平成24年9月30日(日)
- 場 所:西条市丹原文化会館(大ホール) 愛媛県西条市丹原町田野上方2131-1
- 参加者:愛媛 248名/香川 21名/高知 43名/徳島 38名 計350名
協会 51名(関係者含)
- 共 催:エーザイ(株)・ファイザー(株)・小野薬品工業(株)・(株)レディ薬局

プログラム

基調講演 「家にいたい!」を支える在宅医療
～認知症の生き方と向きあう～
医療法人ゆうの森 理事長 永井 康徳氏

報 告 介護の現場から
～住み慣れた我が家で最期まで～
小規模多機能型居宅介護事業所 ひつじ雲(神奈川県) 柴田 範子氏
～地域でともに力を合わせて～
訪問看護ステーションにしおか(愛媛県四国中央市) 大野 弘美氏

フリータイム 昼食及びお楽しみタイム

特別講演 介護甲子園
～介護から日本を元気に～
社団法人日本介護協会理事長 左 敬真氏

実践報告 元気になるスタッフの取り組み
・各県からの報告:愛媛・徳島・香川・高知(4事業所 各15分)
※表彰



柴田 範子氏



大野 弘美氏



左 敬真氏

～お楽しみタイム～

★昼食
今治名物『焼豚玉子飯』

★アトラクション
●みかん一座
●タオル体操
(今治タオルの販売)

★物産展
●愛媛のお土産品販売 等

★介護食・災害食コーナー

★飲物コーナー
(ジュース・コーヒーなど)



みかん一座



タオル体操



実践報告

「家にいたい!」を支える在宅医療 ～認知症の生き方と向きあう～

講演:医療法人ゆうの森 理事長 永井 康德氏



日本は、世界で一番の高齢化率を誇る国になっていますが、世界で一番、病院で看取る国でもあります。今後さらにすごいスピードで高齢化が進んでいくわけですが、「超高齢化社会」の次に何があるかというと「多死社会」。あまりいい言葉ではありませんが、そこは避けられない現実です。多死社会に何が求められるのかというと、それは“看取り”の場所です。

在宅医療というのは既に食事がとれないか、近い将来食べられなくなる人たちがほとんどです。もちろん嚥下のリハビリをしたり口腔ケアをしたり食べられる努力をしますが、そういう努力をしてもやっぱり最後は食べられなくなる。そういう時にどうするか…。その時には、末梢輸液や中心静脈栄養、経管栄養(鼻腔・胃瘻)、点滴を注入せずに口から食べられるだけ摂るという選択肢があります。ただ現在、病院等でこれら4つの選択肢は提示されても、「自然に看る」という選択肢はなかなか提示されない。むしろ「何もしないで見殺しにするんですか」といわれる事例すらあるのが現状です。

朝日新聞の世論調査で延命を目的とした治療を希望するかの問いに希望すると答えた人は12%、希望しないという人が81%もいました。治らないなら延命は希望しないと望んでいるようです。また、医師に「一番楽に迎えられる最期は、どういう選択肢ですか?」というアンケート調査を行った結果、自然に看るほうが楽だと答えた医師が50%、42%の医師はやっぱり点滴をしますと答えました。次に「最期はどういう医療経路を選択しますか?実際に選択する選択肢はなんですか?」という問いには、4分の3の医師が点滴をすると答えています。つまり、半分の先生は何もせずに自然に看るほうが楽だと考えているのに、やっぱり点滴をしてしまうというのが現状なのです。

「最期を楽にする方法は何ですか?」と私は在宅医療をしながら、よく聞きます。患者さんからも質問があります。今、病院で点滴をするのがほとんどなので、点滴をしないと「なぜ点滴をしないんですか?」と質問があります。点滴したらよくなるんじゃないですか。最期の最期に一時的に脱水で点滴することは勿論ありますけども、最期の最期はみんな脱水になっています。身体で処理できなくなっている。点滴をすると身体が処理できなくなっているのに、血管に無理やり点滴が

入っていきますから、むくみが出たり、腹水や胸水が溜まって、それを抜こうとしたり、痰がでて、その痰を吸引しようとしてたり、本人にとって苦しいことばかりが増えていくのが現状です。

「長寿」と「天寿」。一分一秒長く生きたい。とにかく治せるものは治して、しんどくても、しんどい治療でもしっかり、一分一秒でも長く生きたいという「長寿」。実は今、ほとんどの急性期医療は長寿を目指して医療を行っています。最期まで治し続け、亡くなったら申し訳ありませんというのが今の日本の医療です。そういう選択肢も当然あります。反対に「天寿」。ケ

アの視点で自然の死を受入れて、どういうふうに生きるかというのを考える、天寿という考え方もあるのではないのでしょうか。

亡くなる前は食べられなくなります。胃瘻をするのか、点滴するのか、自然に看るのか、そういうのを避けられない問題として考えてほしいなと思います。在宅医療は、そういう選択肢を提示して自己決定を繰り返していく。最期にいろいろな選択肢を考えてこう決断したんだからこれでよかった、これが正解だった、と言えるようなものにしたいなと思っています。その決断をする時、本人が判断できるとしたらどう答えるか、考えてあげてください。ご家族さんが一番わかっているはずですが、あとは家族の判断ではなく、本人の価値観や人生観が考慮されているかどうか、本人はどういう最期を迎えたいか、本人の生き方を一緒に考えてあげてください。

患者さん、家族の幸せは余命ではありません。余命と満足度をかけて、それが最大になることが幸せ。人それぞれ違うのでその患者さんにとっての最大とは何なのか、を一緒に考えていくのが医療者の使命です。避けられない老化や死から目をそむけずに、先延ばしせず、本人の生き方に向き合うことが求められています。



平成24年度 認知症介護実践者研修

今年度も認知症介護実践者研修を開催しました。当研修は、愛媛県が行う認知症介護実践者研修と同等であると認められています。

■修了者:56名

■実施期間:平成24年8月28日～8月31日、9月25日
(座学:4日、職場実習:2週間、実践報告:1日)

受講者の声

とても色々なことを考えれる貴重な時間でした。大変だったけど、それ以上の達成感があったので、これを仕事でも活かしていきたいです。全てが勉強になり、成長できる研修でした。またここからがんばっていきたいです。

自分達の周りの人だけでなく、他の人とのグループワークにてたくさんの事を学びました。いい事をもち帰って取り入れたい。と気持ちが前向きになりました。



研修を受けた事で改めて利用者さんの気持ちを分かりたいという気持ちが持てました。毎日業務に追われ、自分達がしんどいとばかり感じていました。これからは、常に利用者さんの立場、気持ちになっていけるとと思います。

今回の研修、実習でチームケアの大切さにあらためて気付かされました。スタッフが同じ方向性でケアして行く事で利用者の方に“快”を感じて頂きたいです。介護ではなく、快護を目指したいと思います。

今回学んだ事を自分自身だけでなく、他の職員にも広め、施設全体を良い物にできるよう協力していきます。利用者だけでなく、職員間でのコミュニケーションの大切さを学びました。

他の施設の方とも交流することができ、色々な気付きや話などを聞くことができて良かったです。難しく考えていましたが、身近なことから、色々な気付きを得る大切さを学びました。





受講者の声

ケアの質を高めるために

平成18年、前身の愛媛県グループホーム連絡協議会の事業の一つとして取り組まれた相互研修も、昨年度から一般社団法人愛媛県地域密着型サービス協会として、小規模多機能事業所の仲間の皆さんの参加を頂き、試行錯誤のなか事業を継続、展開させて頂きました。

相互研修は、他の事業所の考え方・取り組みを学習し、自事業所の現状を改めて振り返り、新たな取り組みに活かすための機会で、有意義な研修になっています。他の事業所に訪問する機会の少ない職員の方達にとって、自分の目で見たり、聴いたり、感じたりし、自事業所とは違ったケアの取り組みを学べるこの研修は刺激的で、意識や意欲の向上に繋がるという声を沢山頂いています。また、この研修をきっかけに事業所間職員間のネットワークができた。などさまざまな利点があります。

今年度も、参加した会員の皆様から、数多くのご意見を頂きました。次年度以降、これまで頂いた、ご意見・課題を整理検討し各事業所会員の皆様に喜んで参加して頂けるよう更なる努力をして行きたいと思います。

相互研修委員一同

他事業所を訪問してよかったベスト3

- 1位 ● 他事業所の取り組みや工夫を聴いたり観たりすることで視野が広がった
- 2位 ● 他事業所・職員との意見交換ができ、交流が深まり、とても充実した研修だった
- 3位 ● 自事業所で活かせる取り組みが沢山あった

他事業所の職員に来て頂いてよかったベスト3

- 1位 ● 他事業所との意見交換や交流ができ、ネットワークが広がった
- 2位 ● 相手に伝える事の難しさを痛感すると共に自事業所を再認識する事ができた
- 3位 ● ケアを再認識し、多くの学びがあった

相互研修を行なってよかったベスト3

- 1位 ● 自事業所、自分自身のケアを振り返り、気づき、視野が広がり、新たな発想・発見ができた
- 2位 ● 他事業所を見学できて、自事業所のケア・取り組みにおいて参考になり、モチベーションがあがった
- 3位 ● 日々の仕事がマンネリ化していた頃でよい刺激になった

相互研修参加数比較表

	東 予		中 予		南 予		合 計	
	参加事業所数	参加人数	参加事業所数	参加人数	参加事業所数	参加人数	参加事業所数	参加人数
平成 18 年	18 事業所	18 名	27 事業所	27 名	3 事業所	3 名	48 事業所	48 名
平成 19 年	24 事業所	28 名	36 事業所	41 名	7 事業所	9 名	67 事業所	78 名
平成 20 年	29 事業所	38 名	44 事業所	65 名	11 事業所	15 名	84 事業所	118 名
平成 21 年	24 事業所	30 名	32 事業所	43 名	10 事業所	12 名	66 事業所	85 名
平成 22 年	30 事業所	42 名	36 事業所	52 名	11 事業所	18 名	77 事業所	112 名
平成 23 年	36 事業所	52 名	28 事業所	40 名	16 事業所	24 名	80 事業所	116 名
平成 24 年	36 事業所	45 名	28 事業所	37 名	15 事業所	24 名	79 事業所	106 名

受講者の声

東予

私は、人と話をすることが苦手で好きではありませんでした。しかし、今回の研修を通して「笑顔」は自分を変えてくれるんだ!!と改めて感じることができました。

とても詳しく説明があり勉強になりました。図式を書きながらの講習は、とても丁寧でわかりやすかったです。医師の講義はめったに聞けないので本日はラッキーでした。また来年もお願いします。

大変良かったと思います。利用者さん職員共に体調に気をつけ、もし感染があった時等は、今日のテーマを思い出し、他の職員にも伝え感染を大きくしない様にしていきます。

「虐待」と聞くと暴力的なイメージが強いですが、研修を受けて、さりげない日常の中にもあるのだと感じました。介護の現場では限られた時間があり気の焦りもあります。ふと利用者を見たときに何かしてあげたいという気持ちはあるのですが、厳しい声をかける時もあります。研修を受けてからは、気持ちの良いケアができるようなスタッフになりたいと強く思いました。

中予

認知症介護の原点みたいなものを他の職員に伝えることが出来ればと思いました。

現在、聴覚障害者との関わりが職場にありませんが、コミュニケーションの取り方に相違はなく通じるものばかりであることを感じました。想像力を働かせ、すべてがはいっしょではない、その人、その人に合わせて想像力を働かせ対応することを大切にしていきたい。

移動はすべての行為の基本であるということを意識して介護していきたいと思う。

考えて動ける力「考動力」をみんなが持てるとすてきなと思います。自己解決力を少しずつ持てるようにしたいです。

今年度のブロック研修は、日頃の介護現場が更に楽しめるような研修テーマで行っています。

毎回研修後に参加された方にアンケートを記入いただいておりますが、書かれた一つ一つの言葉が、研修委員の私達に大きな勇気を与え、時にはしっかり考える機会を与えてくれます。これからも充実した研修を企画、実施していきたいと思います。

南予

利用者さんに対して、今までの自分の接し方を見直し、自分自身接し方を変えて、また他のスタッフにも伝えて、GHが変わった、変わるように、そして、一番に利用者さんがここにいて「良かった」と思えるようにできるように、伝えていき、GHで活かすことが出来たらと思います。

事例を用いた話が分かり易かった。何度か認知症の研修で聞いたことがあった内容も、再度思い返すことが出来て良かった。BPSDの対応の中で、本人に対する周囲の理解が重要だと強く思う。利用者とは話す時「一度自分の価値観を捨てる」という言葉が凄く心に響き、とても理解出来た。原点こそ、利用者本位につながるのだと感じた。

感染症の発生状況や予防等をくわしく知ることができ良かった。結核については、学校でも習わないため、くわしい内容を知ることができ、資料や説明が分かりやすく理解できました。

見かけのマナー等だけでなく、接客時の心の持ち方が相手に与える印象を変えるということがよくわかりました。

ケアプランを実施することが、プラン作成そのものに密接にかかわっていることがわかり、今のプランをしっかり意識してケアを行い、その中でさらに新しい気付きや、利用者の意向をくみあげ、次のプランに活かしていけるような関わりをもっていきたい。

平成24年度
小規模Net
学習会

当会では、2ヶ月に1回、県内の小規模多機能型居宅介護事業所が集まり、様々なテーマで学習会や研修会、情報交換など行っています。これからも継続していきますので、皆さま奮ってご参加ください。

テーマ「訪問看護ステーションの機能と
小規模多機能サービス等との連携の実際」

テーマ「小規模多機能型居宅介護の支援のあり方を考える」

テーマ「認知症の人を地域で支える
～認知症デイサービスの取り組み～」

テーマ「小規模多機能型居宅介護サービスの適正な運営について」
～運営基準と適切なサービス提供のあり方～





日常での利用者とのさりげない感動エピソードを
現場の新人スタッフから聞きました



東予 ブロック

グループホーム
しおさい
小笠原ひかる
さん

春、高校を卒業し社会人としての初めての仕事が介護でした。右も左も分からぬ中飛び込んだ世界、ここまでやってこれたのは入居者さん達の「ありがとう」やたくさん笑顔があったからです。

入居者の中にSさんという認知症が進み、自発的な会話、意思疎通が難しく、夜間不眠もある方がいます。

私が夜勤の日、「Sさん寝れるまで傍におるけんね」と声をかけると、私の顔をしっかりと見て「ありがとう。寝る

まで傍におってんよ」と言われたのです。驚き、心が通じた気がしてとても嬉しかった事を今でも覚えています。

毎日同じ日はなく、入居者さん達から教わる事はたくさんあります。昔の歌だったり、花の名前だったり、ボタンのつけ方だったり。

足元のおぼつかないような方が、私が家事をしていると「姉ちゃん、手伝ったげよか」と気遣って下さいます。

何げない日々のやりとりの中に、私はこの仕事のやりがいを感じるのです。

中予 ブロック

グループホーム
風花
藤岡美穂
さん

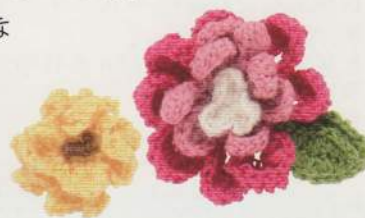
介護の仕事をしていると、ご利用者に対して「つついしてあげてる」という感覚を持ててしまいます。しかしいっしょに生活していると、ご利用者の言葉や行動から「してあげてる」ばかりではないんだ、と気付かされます。

例えば、洗い物をしていると「今日は何もしてなかった。ごめんよ」と腕まくりをしたり、「いつも食べさせてもらってるんやから、これくらい…」と、洗い物を始めてくれたりします。また食事の下ごしらえをしていると「あんたは忙しいんやから、それくらい、私がしてあげる。何もせんと、

ちょっとくらい休んどきなさい」と目の前の食材を引き寄せてくれます。

私たち職員は、介護者として、ご利用者を支えているつもりですが、実は、支えてもらっていることがたくさんあり、ご利用者からかけていただく言葉や助けてくださるその姿に、嬉しさや喜びを感じ、また頑張ろうと思ひますし、次のやりがいにつながっていきます。

ともに支え、支えられながら、ご利用者と一緒に1日1日を大切に過ごしていこうと思います。



南予 ブロック

グループホーム
やまと
祖母谷啓子
さん

グループホームの仕事に就いて、はや5年が経ちます。

パートから始まり、フルタイムに移行し、利用者の方の本当の気持ちが理解、聴けているのだろうかと苦悩と葛藤の繰り返しでした。

ある日、リクライニングの車椅子で入居されたKさん。表情も、言葉もなく、昼夜関係なく自己の世界の中だけで活動する日々でした。言葉を引き出すための会話と、生活リズムを整える為のカンファレンスを繰り返してきました。チーム一丸となって根気よくケアを続けたある日笑顔が見られ、言葉も出始めました。

そして昼夜のリズムも整い始めると職員はみんな喜びました。「これぞ!介護職冥利に尽きる」というものです。Kさんも年月が経つにつれ更に認知症が進行し、せつかくの言葉も聞き取りにくい状態になり、表情も乏しく傾眠傾向も出始めました。Kさんの笑顔を見られるのは、いつまでだろう…と考えると辛くなる時もあります。最近入社した若い職員が「Kさんめっちゃいい笑顔してましたよ!こっちまでうれしくて笑顔になる!!!」と…そう、利用者さんのこの一瞬の笑顔が私たちの励みであり、癒しでもあるのです。継続は力なり!若手職員ファイト!そして老い行く私も負けじと頑張る今日この頃です。

新規加入事業所の紹介

東予

- 1 かがやき(新居浜市)
- 2 多喜浜(新居浜市)
- 3 はなれ茶屋(新居浜市)

中予

- 4 お城下(松山市)
- 5 里山どんぐり(松山市)
- 6 しょうきぼたきのうほうむ3丁目(松山市)
- 7 にじいろ(松山市)
- 8 メサイヤ(久万高原町)

南予

- 9 ニチイケアセンター八幡浜(八幡浜市)
- 10 亀の郷(大洲市)
- 11 コンフォート神山(八幡浜市)

ほっと笑顔vol.3(2012年7月発行)に関するお詫びと訂正

P7.8.9に掲載された「会員名簿」の中に誤りがありました。正しくは次の通りです。

東予地区グループホーム 小松の里……………(誤)津島美由紀 (正)兵頭 恵子
東予地区グループホーム ゆいの家 / ゆいの里……………(誤)片山修二郎 (正)片上修二郎
中予地区グループホーム 梅本の里……………(誤)亀井 堯 (正)亀本 堯
中予地区グループホーム こころ……………(誤)寺尾 洋子 (正)杉田 一郎
中予地区グループホーム ユニットぐんちゅう……………(誤)〒791-3164 (正)〒799-3113

1 グループホーム かがやき

■ 2ユニット 18名

グループホーム かがやきは平成23年11月に2ユニット18名の共同の生活の場として開設しました。「笑顔で 共に 生き生きと」を理念に、利用者様も職員も常にとともに笑顔でいられる様、そして居心地良く安心して生活していただけるよう取り組んでいます。施設に隣接して市の東浜公園があります。自由に散歩をしたり遊具で遊ぶ子供たちを見つめる利用者様の表情は、とても和やかです。その人らしい穏やかな生活が送れるよう支援していきます。



社会福祉法人 三恵会

〒792-0896
新居浜市阿島1丁目7番地20号
TEL:0897-67-1100
FAX:0897-67-1102

2 グループホーム 多喜浜

■ 2ユニット 18名

グループホーム多喜浜は、平成24年3月30日に開設しました。医療法人愛寿会の理念のもと、オープンで透明感のある安心度、満足度、信頼度の高いグループホームを目指しています。利用者様一人一人の生活リズムを尊重し、症状の進行を緩やかに安定した生活を送れる事をモットーに支援を行い、リハビリ体操、レクリエーション、音楽療法等を実践しています。

医療法人 愛寿会

〒792-0893
新居浜市多喜浜2丁目4番43号
TEL:0897-45-5566
FAX:0897-45-5567

3 グループホーム はなれ茶屋

■ 2ユニット 18名

グループホームはなれ茶屋は、平成22年11月に2ユニット18名の施設としてオープンしました。市内にありながら茶室も備わった和風の庭があり、近くには桜並木の遊歩道もあります。自然豊かな環境の中、四季折々の季節を感じながらのんびり生活していただいております。スタッフ一同「笑顔・誠実・ふれあい」という理念のもと利用者様に寄り添った生活支援ができるよう努めております。



株式会社 お茶屋の里

〒792-0035
新居浜市西の土居町2-8-21
TEL:0897-32-4685
FAX:0897-31-1939

4 グループホーム お城下

■ 2ユニット 18名

医療提携をしている西田クリニックと同じビルにあり、エレベーターで2階のクリニック受診が可能。

西田クリニックビルの3階、4階部にホームがあり、千舟町通りに面している。郊外電車や、バスなどで来られるのに便利。松山祭りの行列、夏まつりの野球拳おどりなど通りに出て見学したりもできます。

ゆったりとした一日のメニューで過ごしていただいています。

医療法人 啓蛭会

〒790-0011
松山市千舟町4丁目4番地5
TEL:089-921-0207
FAX:089-921-0208

5 小規模多機能事業所 里山どんぐり

■登録定員数 15名 *通い定員数 12名 *宿泊定員数 9名

里山どんぐりは、小規模多機能事業所・小規模型デイサービス・住宅型有料老人ホームを併設した施設です。御利用者様は、中重度の方が多く、毎朝血圧・体温と共にサチュレーションを計測、毎週体重測定をするなど健康管理に努めています。平成23年2月に開設したばかりの新しい施設ですが、ご本人やご家族にしっかりと寄り添いその方にとっての幸福を共に考えながら支援したいと考えております。

※平成25年4月に、住宅型有料老人ホームを9床増床予定です。

株式会社 里山どんぐり

〒790-0064
松山市愛光町6番3号
TEL:089-989-8700
FAX:089-989-8701



6 しょうきぼたきのうほうむ3丁目

■登録定員数 24名 *通い定員数 12名 *宿泊定員数 8名

“今までの生きざまがなくなるのはいややろ…そやけん、わたしは私のままで生きるんよ”

馴染みの関係を離れることなくサービスの利用ができ、自分の生きてきた地域でつながりも持ちながらお互いに協力し助け合いながら毎日を過ごしています。

『自分のことは自分です!!』『自分がされて嫌なことはしない!!』職員と利用者さんが毎日泣きながら、笑って、元気に生きています!!



株式会社 スローライフ

〒791-0244
松山市水産町631番地
TEL:089-997-7142
FAX:089-997-7142

7 小規模多機能 にじいろ

■登録定員数 25名 *通い定員数 15名 *宿泊定員数 9名

旧北条市に平成24年に出来た事業所です。

小規模特養・ショートステイ・デイサービス・認知症デイサービスが併設しており、多様な対応が可能です。またお風呂はひのきで出来ており、お風呂好きな方は必見です。

周囲の環境は、高縄山・鹿島が見え、自然に満ちあふれています。職員は、各利用者様お一人お一人のペースに合わせた介護をモットーに、笑顔が満ちあふれています。

利用者様・家族様・職員が一つになって、毎日の生活を生き生きと楽しんでいただこうと頑張っています。

社会福祉法人 泰斗福祉会

〒799-2460
松山市苞木甲200番地
TEL:089-994-0069
FAX:089-994-0093

8 小規模多機能ホーム メサイア

■登録定員数 25名 *通い定員数 15名 *宿泊定員数 9名

小規模多機能ホーム・メサイアは、平成24年2月に開設しました。

自然豊かな久万高原町。人情豊かな人々に囲まれて「優しい笑顔と感謝の心 一人ひとりの今を支えます」を理念に、職員一同、楽しい毎日が送れるように取り組んでいます。



介護支援サービス しのもと

〒791-1206
上浮穴郡久万高原町上野尻甲535
TEL:0892-21-3383
FAX:0892-21-3386

9 グループホーム ニチイケアセンター八幡浜

■2ユニット 18名

2ユニット18名の共同生活の場において、18名の個性豊かなグループホームになっています。

入居者・スタッフ共に譲り合い、助け合い、声を掛け合って、わきあいあいと過ごしています。

日々、笑顔の絶えない空間での生活を送って頂けるよう、スタッフ一同努力してゆきたいと思っています。

株式会社 ニチイ学館

〒796-8004
八幡浜市産業通4番18号
TEL:0894-29-1731
FAX:0894-29-1732

10 小規模多機能居宅介護 亀の郷

■登録定員数 25名 *通い定員数 15名 *宿泊定員数 9名

『亀の郷』は小規模施設ですので、利用者お一人おひとりと、ゆっくりと接する時間を持つことが出来ます。

利用者の皆さんが、なじみのある住み慣れたこの土地で、安心して自分らしく暮らしていけるよう、その人の持っている力を引き出せるよう、スタッフ一丸となり、事業所理念の下、一人ひとりにそっと寄り添い、皆様の笑顔あふれる場となるよう取り組んでいます。

有限会社 エンジョイライフ

〒795-0002
大洲市松尾465番地1
TEL:0893-57-6150
FAX:0893-57-6151

11 小規模特別養護老人ホーム コンフォート神山

■特別養護老人ホーム 29名 *ショートステイ 9名

入居者様・利用者様に楽しく過ごしていただき、ご家族に安心・安全を提供出来る施設を目指しています。

入居者様・利用者様の立場になって考え、思いを感じ取る介護・サービスに努め、チームケアに取り組んでいます。

各ユニットリーダーを中心に、四季折々の行事を企画していますので、入居者様・利用者様には日々の生活に楽しみや喜びを感じていただき、ご家族や地域の皆様には交流の場としてご利用いただきたいと思います。

社会福祉法人 弘正会

〒796-8010
八幡浜市五反田1番耕地76番地3
TEL:0894-24-0601
FAX:0894-24-0602



<この本の推薦者>

入船 啓一

(当協会 理事長)

ヘルプマン くさかり樹

高校生の頃、開高 健の「オーパー」を夢中になり読んだことがあります。世界中の川・海に釣り歩くものであり珍しい魚がカラーで印刷されており胸がときめいた思い出があります。

しかし最近は年のせいかな文庫本を読むことがほとんどありません。週刊誌を読む程度です。そんな中、漫画の専門書があり読んでいます。くさかり樹の「ヘルプマン」です。介護現場をリアルに表現し日本の行くすえが描かれています。とくに11・12号の認知症編は地域密着型サービス事業所に勤務されている職員さんにぜひ読んでいただきたい一冊です。



ちょっとおでかけ おすすめスポット紹介

ふたみ シーサイド 公園

<道の駅ふたみ>

「日本の夕陽百選」に選ばれているふたみシーサイド公園には、恋人岬や夕日の観覧席（階段式護岸）、願い石、幸せの鐘があり、カップルたちの人気スポットとなっています。

夕暮れにここに立つと、空も海も砂浜も黄金色に染める夕陽の力強い輝きに、自分まで黄金色に輝いているような気分になります。

「道の駅ふたみ」には、新鮮な魚やミカンなどを展示即売する特産品センター、海と夕日を眺めながら食事ができるレストラン、日本初の夕日をテーマとしたミュージアムもあります。



ふたみシーサイド公園
道の駅ふたみ



道の駅ふたみ

身障者用駐車場・
身障者用トイレ有

<営業時間>

- ・レストラン：11:00～19:00
- ・特産品センター「ふたみん C」：10:00～18:00
(駐車場・トイレ・電話は24時間)

<休館日>

- ・年末年始
- ・物産品センター、レストラン / 毎週火曜日

<連絡先>

愛媛県伊予市双海町大字高岸甲 2326
TEL:089-986-0522 FAX:089-986-1430
HP <http://www.futamiseaside.com/>



編集

後記

今回のほっと笑媛はいかがでしたか。今年度もあとわずかになりました。一年って早いですね…
一年の振り返りに、是非記憶に残ったホットなエピソードを投稿してみたいはいかがですか？
皆さんからの投稿お待ちしております。

広報委員一同